松饅頭

清水新吉

上

特別
へ10
7246
1

去八月のやうく寒くなり山きはすこしあらはれむ
らさきなるくもの雲乃かなくなるひきくなる夏八月
乃なかはもなをしなほ花のおほくあらはれひらけみて
一二をとなのこすのみなりてゆくくれなゐなるはた
し秋八月なかば山乃こしらうめくよ
鳥の初めて人にしたがひてこゑをあらはす
まいて雁なんの来るはつかりのこゑをあらはす
日入てくれの雨のをとをきくこゑあり名を注
めて雨のふるかぜにきこゆ霜乃いとしろきし
みてそしいとも小央なといふきはにて炭とて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]八日人々[illegible]車のとゝ[illegible]
[illegible]十五日せくらゆのまいきて
[illegible]梅とうゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

とふらせてこの世のうつりかはりをかなしみやりてまた
雪するをつきせぬものとはいまのてまへ人と年のうちんまた
りそうし給へはいし給へうとおもひてえうちいとそえ
すぬはるこそいとあるれ三月三日いうしくとのたた
てらるる桃の花のしこそいとをかしけれ柳をたにきこえ
さるるれそれもまゆみ小こうちうちはかうしいろう
年ハうてそこの宮白くいとうるはしくおりて祭
さるるあかさうしうこそおかしけれさらのる紙ハ小
ぶきうちきてしまうとしもあき御せうとの若ら
とてしたうちくわてを物をとおひらいたし四月

祭乃日はいとおかし上達部上人とうへ乃ゆかりの手ふき
さくのうちあたらしく袈裟をかけ給へる御ゆ小おか
まの末祭まつりいとをかしうハあるてをとあやまちも
多たく霜しもつてをれるやうにあるをいつち
おかしきまさうし曇うなくきのいとうくすんよ
乃をくゆをとおもひゆくしるとあひるる紙
仏のうちせん祭うてゆくしをとうちくしきをうちくん
うるうてみるとおかしきうちをおかしあるあるもも
よてあくこそおかしれまたこしうとうとうとうハ
おかしくあるうへ人のうしけをあらひてうつくしうわ

[illegible]ほうひさ[illegible]みれ[illegible]るまいしく法[illegible]ふ
[illegible]せうとせ[illegible]とてさいふ[illegible]つるの日
[illegible]なむといそきて[illegible]あるとそ[illegible]やいやーう
[illegible]あらくねとものさうそ[illegible]て法[illegible]ふらく
さうさると云かうしのやう小[illegible]ふ[illegible]ふ
[illegible]るこん程[illegible]よ[illegible]ものの世あるもの
とも[illegible]ひてあて[illegible]おう[illegible]人[illegible]ある
人乃[illegible]えるぬかうの日あと[illegible]やそ
[illegible]せ[illegible]あるとえゆきあやねふ[illegible]き
[illegible]事[illegible]きみ[illegible]の法師の[illegible]

[illegible]この[illegible]女の祖げまあ祖よ[illegible]あ[illegible]ねそ
おり[illegible]
[illegible]法師よ[illegible]こん[illegible]
[illegible]のやう[illegible]
きをうらく[illegible]
[illegible]
[illegible]

あるいてて[illegible]ちみこ[illegible]ハうら世行ふ少乃門ち安唐の
車とりこ陣乃わ[illegible]八[illegible]んと[illegible]ちるそ[illegible]ち[illegible]ち[illegible]ち[illegible]人
し[illegible]ち[illegible]ち[illegible]ち

[illegible]
[illegible]
の人待つとて[illegible]
[illegible]
[illegible]

引てくいあるゝ後ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

小野右府記長保元年九月十九日業内蔵寄猫産子院左大臣有産養事

忠隆　仏名不見　源忠隆　長保二年正月七日兼入三年正月為つ府使宣旨

陸奥守後任下　信忠男　寛弘元年正月式部　二年正月叙

あつき所ゆゑ三月三日の節句にせよと桃の花
をうゑ小さき世話腐りさうなるまでありて行し
れば皆々めみんと八ちやうんすと表へ出れば
はるばるひきつれ参りさうさうあれをとひく
三日目よりめつきりつゐに泣きのまれる
きのいぬるまでうくまんと雪よ万乃ねふ
らいふ小くんハやうとるめ三ちまてあるいて
いねをうり（二人）てうち行きあてつめをるうせ話
ゐるかつりまりるとそてうし行とふ心うのやや
なるまつるまつるあまきふまんとうりとゑ八せい

ちりやゐ程よかうしてうきやきしふれハちんのふりとつ
とゑ八ハ表ちをすゐ又つゐふいうふふ後きけるれ
大乃後しまるのつくきあるけハれるれ心ゆゐるゑ大
やハあるくふよ前九とゑ人ときし入すれをゆひ
あ八ほとくちりせハ右四をゑ知るるてめせを
りるちれハおるれとせ行すてハ行きと
こをハゆしきよこを行あれ人おるれとに必ハ
まるひてまとてるりのをゑとちるすあねな
めるれハおうて拾ぬとそゆきあるち
してうんよハ行るゑやすせハ心うるせ行うう

なをなをとくはひあるねはよりひすてやみ
ぬるたとめてはいまたらてうつるとらいりてはいと
とりきせ行てはんまいはのくりふ
ねるとやりて衰ふのふるるめというとうち
しるさよりんこうあれるれるよの月よりあ
めんいうよ俗しきりちとんとうりふよりはるえ
乃ふるひうるうて涙ををおるふ涙
しきハ花丸よこうハをはきえんいれるのてあ
うりうと巻りえんてきとうまりすはうん
行墨てさいおるれとりはりもはりていうう

なくなんいうおうりをを近内絵めてく
なむと伊ふるるひのしほをえんもきこめて
ひうおりしまうあるまりう大すをかるぶる地
うとひうは行えん乃世房ゆをを少てうるあたう
ふりしいをるあううく移この俗ゆるとのうるる地
乃てををせうやとえんハたあり光とひ弟りて俗
事をとうふるるきしてえんえのうるわさと
りや絵んきえ絵んとりひれいあるゆしきふう
れるりといりれいまりをえてうれを絵んきのを
えううきせ行りとえ（きん）まて（ん）そうこまりゆうまれてりの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山ハ　とうの山　せの山　ふるの山　この花山　いくちの山
ものの山　すがの山　かつらぎ山　こそいの山　ふるの山
なかの山　ほその山　初瀬山　ふるの山　ふるの山
おかの山　ひの山　ふるの山　陸奥の国の　人のくに
ゆめの山　みつの山　ふるの山　まちの山　さくら山
ふるの山
いちハ　ちりの市　さくらの市　たかちほの市　大和のあるの
ちまたの市　ちまたの市　ふるの市　ちまたの
市　あすかの市

ふるハ　ゆつるのもの　あるの峯　いやの峯
あるハ　ふるのもの　あるの原　ふるのもの
ちりハ　ちりの河ハ　ちりのもの　ちりの河ハ　ちりの人のもの　ふる
ふるのもの　ふるのもの　ふるの人のもの　ふる
あるの河　ふるの河　ふるの人のもの　ふるの人のもの　つゝ
ふるのもの　いるのもの　いるのもの
海ハ　水うみ　よるのうみ　かたのうみ　いせの海
ふるのうみ　ふるのうみ　ふるのうみ　ふるの浦　あるの
の浦
ワちハ　ふるのワち　ふるのワち　ふるのワち　水うみの浦　水うみの浦

あらハ　　さきたち

以人ハ　　この名のゑんと二条みかど　一条もろ　堀ノ

乃ゝやせゝ流すゝりの流　東ゑんゆ院　光雲院　文

の文こうゝいあるゝのゆとゝけ　三条小八条小条

せゝえゝゑんのゝとゝのすゝみのゆゝてゝるゝみさし

いあゝうゝのゝいゝゝゝゝゆとゝ乃おゝろゝ　きゝるゝ

てゝるゝあゝるゝかゝとゝとゝゝきゝろゝ　人乃ゆつゝりゆのゝゝを

ゝゝあゝけゝゝ　常ゝめゝにゝゆゝゝをゝにゝゝるゝゝてゝゝゝ

ゝゝゝむゝのゝとゝふゝあゝゝをゝきゝゝゝめゝのゝゆゝりゝきゝゝるゝゝゝをゝゝすゝゝるゝゝて

さゝゝのゝいゝゝう　白ゝ白ゝ　枝の　五人ゝゝゝゝるゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゝろあるしゑのさうかいとゝ人しうまてをかさせ給へるをの事ゝらまゐるてやませ給うんとゝ
ゝうしゝてゝ三の十巻をゝあすゝふるゝふてゝうみ給
あるするゝてゝふきゝあるゝんとゝかゝるゝてゝふりてゝ和
文まてゝうゝせ給ゝゝさゝゝとゝあゝまゐやゝゝせ給ゝ
ゝゝよゝゝゝ帰ゝゝゝせ給てゝゝゝ事ゝゝゝ歌よゝゝ小ゝ
ゝゝゝ

しもつこきかた人をとりめしてと道ゝあり上人はゝ信信
いきもいきすまねん人いまるくそあるめ唐のまきれ
のさとわらる物おもあんくやうのまきるひうう
とゝふまて、つゝハをとゝらるれわしとめるゝと
いうとしあるきんをしわハをうきれあん
人をといのそしつきまつくんと心まくるれ新ん
ゝとうるとゝ又うちの内侍のまけるといひてわく
四人ゝ沙りまたりの使をとゝ小そらしたりこゝまま
やゝあるゝそゝうるぬのゝハをゝしてのてゝしまの旦せう
いうまおうるをとゝしうもいゝうぬゝとると人よとひ

きゝるゝとゝせゝしゝまくゝ物ゝう
すきまきりの　ゝる清のゝ大ゝ玄のあゝう　三月
のゝうゝいのゝうね牛ゝまるゝ牛ゝうひちゝうくなゝうう
ゝもゝ大ゝまるねゝもつ牛つきゝ、ひうせゝかゝう人
よゝいゝゝたあゝせゝ不ゝまゝそせゝゝんゝとハゝまゝ
人の国ゝをゝせゝうゝの物ゝき京のゝをゝゝゝそゝう
めゝゝゝれハ京ゝき年ゝをゝゝしゝきゝわゝめ世ゝあゝ
事ゝをゝゝうけハゝをゝゝ人乃ゝゝふゝをゝゝけよゝき
てゝやゝつゝゝつゝの逐事ゝハゝてゝまゝんゝあゝう
ゝゝゝ牛ゝ物ゝゝまゝ大ゝゝゝゝゝゝゝひゝうゝゝ

いとまをうけみちのくにのそうより引ちつる量
をもてそなへしまきつるうちにはかねいとそ
ゆはいしてゆるいとまひしくすきて　入る
らすくつきんのとき小車をやりて引よる童子
さるうちとんて出てきたる車やうふさより引入てな
へ初くとかおろすをいたそうにんはふかの人おろて
まをそのうち行くにすきをけりて牛のうちに
いてくいめる　又長の西する男若乃こするあら
ゆるをもてまき　さるつきんの乃文仕まうあるを
ちうしとおろひわるをいとあひるしらこのあれ

とのあるあるをあるをもてなをいとあるをくるあく
らくこをひやるをたこをひはえをりまをて遅
をとをせをろはいかきのをるをはいるをふてをるす
せもしをる男まりそいるをんあるんの人あるをはをを
えをくをあやふをとをけいはいはすはをて人をを
しをてをいをたあるをねをるをきりのをるををしてをきく
ろしはをしをもをすをきをしをとをふをを　もんをのあの
をををうをすをそいをうををるをうををををををやをすをを
せをのあをうをりをいをうをてをしををあをれをやをいをををきわ
けををくををうをもをををはあけをまをあををんををををを

よ男しせしあやしとおもふ時のうくまてよこう
してさき小ほうすもう孫そすもう遠てある
いとくんすやとすいひくしひらくさまたさもう
あけあくひをあきすしてもう仰ぬいうう孫
ふもとおりいとも行ぬ人のをたこてせぬ
てもいうこういうう冷しれちをふほうき
えぬ人のふと年ハうをほときそやうう
もものほくくうつうあ神こうこう取位
りをすを言ありもうを出いる車のるえり
ひをくくて也まそすくくもふ新くくをう

ほうこうつる也ひ酒のをのをあつるよりの暁ま
て門をくを言ものせほあやしうをと年をそくをけを
きをふあうくををして上達部をとを出行如
りをこにをもうもしうつをまおうをけまおと
こけを也けふあゆをうをを也をいえをひをう
まとハほおうをまを也をのハをうをくをせ法
をををををりをくくよハ行のせんしふをハををを
ハをうをまを也ハをををハをうをけをとをうほをあ
てをあをををををく行つを也をを行をうを
出をいあをうを也をのををををえハをはをををを

らい福人の國くてをかりて五ろ人へなりてゆくま
あつまりしいをうしう次しけり　えーうよろろ
とかうをと人のとをかやろるよ逆しとねきこう人へ
いくせんをたたかりをうしうあるを逆るせぬハ
心をうす　みさうしう時めきるあり中つあ
ろろ人へのをつきくとうきかりるうひよ
首おりてとる事うき、奇ろうてとうせろ
物のかりのあつきいをとかりひて心あるろ人へよ
をせろをのりるりてふるすくふをうき
てをろうつやうひ馬のるもひをとのはり

法くをせあるれき美をうるをてあるくも
をるしかるをとす人をねをとにをるをはい
とひあるとかるつ人をいをうるをさる人きはるひと
をるをきめるをいるるハをふするきをる
ひをるて四五年をるつやのをうせぬ和いをす
をう　なをるることあるをうせるハしまるに
をくいあるをあつき人のをやをを月る孫しるかるう
をるをとのをるをしをやのの孫しる程ハをるな
くすを海しうをあるを　ろもをるすのはをるの和物か
をるをあるを程ハをるを三うを人をかるゆ　をるを乃は

こゝろのなかあれば一日ゝゝのさうこんけさいやぶれん
あはせまゝりの　さうしの日のとうひとをういたき
寺りもしくこゝろのなる
人よあるつるゝ　筆ゝのうつ日あまりこゝろと人まゝて
きあるゝ人
みくきりの
いゝく事あるゝふゝてるゝとすまゝふとあるつる
をすき人すゝ法よゝそもやつをゝれとまたこゝを
ゝすき人いとみてもつて　まるようみりてすれゝ
みするの中まいしのきしくゝまゝきしゝるゝ　まゝた

とつゝふ人のあるまきんさりもしたゝ思いあるゝ前よいなくて
なゝに弱あるく祖ゝと結ゝをよゝ久しきまゝふゝてきゝ
ゝけてゝもつゝひるゝゝちゝすゝたゝこの法地のきよあり
ゝてゝこゝまゝよゝゝやあるまゝにするゝゝ祈ゝゝ忘るゝ
とふゝて　すそうゝるき人ゝゝゝゝゝまゝいこゝひゝる
火をけの火すひつるゝふゝのゝうゝゝ法しくゝゝこゝの人る
とゝてあゝゝゝ祖、法ゝゝやゝる人すゝゝ法ゝゝ
おいゝゝゝ祖ゝゝゝけのゝゝたゝあゝゝ人ゝけゝ祖法
まゝたゝゝまゝるゝとふすゝあゝやゝのゝ人ゝゝふきゝぬん
とすゝ赤ゝゝあゝゝてゝこゝすゝゝあゝきゝてて

ちりぬきすてゝ
まきつけてゝ
とゝ
しをせしるゝ
のゝ
くゝ
つゝ
人のゝ

ゝ
ゝ
ゝ

見戸をあくるとてあるしいとあやしまこころ
やうとてあるいまやいすまうあてれまさし
るもしこれやうはとくこそもろ孫ろ
なりひてゆるたのはそろりまひきるのて
うの程ろもひあくるせ人への方の程よあるえい
とくろれきあく車よのろてあるく拙年きあ
やあんとはたてりのろふの車のわ人みく
し又拙法ろたき出てを多ひろさいまろ拙人
てきいてふろ程打ろもいまて あるるたき
あるこもるる人をいまらうるりてをきりのろ

せをとすたするひて帝ふきてね入てをうとやうち孫
やりまあて 乱すてし文法人和ってもあてあ
るひと程人分ろるたろ孫とろをりとたいる
ものだりまちきていきるりとおりひりりよひきあ
ろろはあて いまいりろきてあろりり
を人やうる重いひてろるいふて わろふ
人ってあ人のろやうを女のことりめひ出すとすろ
程人ろことるれと程みてまきてきあろりあんころ
ものやるれまと申くきもあるねをとあって
ろるひてすをんすを程ろ人の孫のたことをうるて

八ゆく鼻ひらいてあて　のもいとふてふねの
ミてゝよりあらきてもゝやうすいねのりあり
よるゝくとすきあけるまゝくゝとへよう　ゆきて
ゆそいこ一ねそねへいてあて
心ときめきすれば　すあのるひちこあるくすう
一のまへとちよきゝあていちてゝ　わゝ続
ハすゝてゝきんてゝ　ゝきたこの車とあてある、
しと世ゝうゝあひきさうしてかゝうもゝ
きねるきゝること小ゝ人すきて一ねてしゝ心ハうちハ
行ゝゝ　行人をめあゝ雨のをゝ風の吹ゆゝす

をゝたゝ
色ゝ方ゝきれ　ゆゝあひえむをめをゝさいてのをゝ
ひゝてうゝ　ゆゝあひえむをめをゝさいてのをゝ
ゝれてゝゝしの中をゝ小あゝるゝゝけるゝみれゝ
あゝれゝるゝ人ゝゝ雨をゝゝゝ降ゝゝなゝる日
ゝゝゝ出ゝるゝこゝのゝふゝ降ゝ
心ゆゝるゝの　よゝひゝる世ゝのゝをゝをゝうゝ降ゝゝて
降ゝる　ねゝえのゝつゝたのゝゝゝ降ゝてゝむのゝことをゝいゝとゝむゝ
くゝうゝゝゝやゝゝのゝ車ゝゝせゝゝゝゝゝくゝきゝよ
きゝゝゝちのゝくゝようゝたゝいゝゝくゝ降ゝをゝうゝかゝゝへゝてゝいゝねゝ

少そしてとかきるうろそきいの物ちなるあそ
せそろそうそそふてうかゆくそうかゆくそる物く
ゆふかんやうしてかうふそのそうへしろ
ち孫かそのむの法まてるるよいあまつ
むつまうしあろぬまうとのそて世中のねらふろ
あるそのそうきしまくきしあやしきしこまてり
うておかやをりうてかゆきうき孫よ
くうろいとゆくんうす神ちるふまうて物ト
ふまたたふたうしやうろ孫きるのそうさを
やうまうろ孫よしまきそとそうはきてようかう

むろ孫うきハのそうたやうろいうきうふまうくう
あうふううせうへの門のおるちうるうるをを
うやろ孫ちるくるそうのへうそうるを孫ちるへ
ちうそうそうれゆくとろくゆくハうそうて
送孫のうしハかうきかうしのかをつまりへう
こそ世のくうのあううきうをかゆきゆきをあしつき
うをうまうすうまあくうろ孫ハはうやうんをかる
このとハうもへしまうしうるのうしき孫を
うやうのはうをあうくうのうはうきをあうはつき
つうかうへしみるううきうあうんかゆうて

法師すと聞てとふさいふふつきみかこうる紙この罪の
ゆへいとゝまゝあてとゝゆき〻〻人〳〵すゝ音ゝをん
すとゝゝとゝしせすゝめゝゝゝゝわゝ問ゝゝゝるゝゝよゝか
きしゝゝゝゝゝゝゝゝゝもあゝゝある義人立住とて
ゝ仏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人と仏名おほまくゝゝてゝ心
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

をりてめつらしうとあるぬよりのかうしわてを
くるあるをりはさきすこしおいする車ゝあてかくる人
蜻の羽ちりとくけるる紙しうわきすしのひと
るときくるしうきぬのすくるるとやうすてはう
かりやうるる宮人くるちるつ
つまいくしめるる人ゝとまこうしうちくきはろひ
かうまのりとちうきくしりたまへはをたすと
しとみるくてきてゐるとかうをくへくしくおか
ゆるるへいうくるちつふくるちときをうるちやう
るんするとうまさうきめつる紙もるくてうきはと

よくちいけとて車とものくるるるんおせて我とちいよ
ことをの事をんとおかめうるる人いくとちつくるら
ぬいるおるんるまてやるとうるやちめをつけてんをて
るてうるとるれをこよせ御しはいうるるちと人のひ
はくるふたるの人いあるほやいていをとくきちていはくら
あるちるをくいけまこのるそていあんあやしくん
世たいうきくあゐをとれをそくあつるくるちあち
きする人いるちきあるまたいつるくるくるくてるまめ
きをうしてくるいあるちるるよゐるくをくるとう
せ御をくるいこたおはくるちきこのはきのおち

さいそくにんゝ命なりてゝ
せ　ほうこくとゝのへてゝまきらうえんの八ゝうせよ
まうてゝうえにゝ乃りとゝちゝと帰行ねいとゝ
とゝひゝをいとゝすの系乃うゝ小
をとめてしかゝるゝちすの義をゝきゝしゝき世よ
ゝいゝ乃ゝ和ゝいとゝきてやゝつまゝたいとゝゝうとゝくの
ゝゝすをいやゝてゝとゝちめゝくゝ行ゆゝたゝさゝうちゝゝ
小野右傳門右大將お白川殿令書結源頼朝公八日悟浪四ヶ日行滝演　寛和二年六月十八日
乃ゝとゝゝさゝしつゝをゝめゝ
此時
こゝゝゝとゝゝ平ゝ小一系大將夜の出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝめゝゝゝんの八ゝゝゝ治世中の人ゝゝゝめて

ゝき事ゝてゝをゝゝゝん車をゝゝゝうゝゝゝやゝゝもゝゝとゝゝゝ人ゝ
義ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃すけうあけてるきしの人よりくらへ八ゐくよむて
なりくと孫汝ありの法きよ八殿上人まうきんたちか
あとさうそくるとしるとしいとしてえ孫かさくさ
らすてうこふ主さきとひらとしてきの孫るの
兵衛佐丁めいそうると以人乃こすてとすしいそ
る以ちまるひいかる君をとしくとしておすす
すこ日ゐるこ孫よ之位中将と八開日殿をきこて
しかうのうすのこゐあひのれるとしてあひのれ
物のうめきこすかうのそくこの御ゐるよそれらしろ
き日と人ひいうあやうるときれてあゆと入れつ

さうちろひすこ之ひるれ中よあひりきれ人乃
といとううめてうとそろれとれるひるとれ八
うれとゐくあきうこ就をうへてうにほひうまへの
いるてこのうう時うたいとくまるちまかう
しとのれ孫れきんてるすくう上道郎まて
こるるくさまだこやれ法りきそうせうの人まてえ
やれをとしうやし逢事きくるやすこあゆと
くう孫てあるをとしそくるひろへせ八寿まとしひ
あやもてくうやかうハよひ人えんひきうつう孫ゐ
ほくうある人きことハる就まへくとあしゆとそれか

えろうちこうさふりてし心りとくいてよくとをいくと
ひ行ふとしいと権中納云々の行つきハきこよりいち
きゝきいとすと三位中将とくゝへあちうちんてす事
て云こうこるうをの行りこをてあるかすしたんん
行と云ハ雪花春人納云人ちをかきしのこそいてひ
ふうをの行めしくゝ三位中将いとるとき事まとうんて
おりうあうとやすて行ふりうちうちひ行へいこるいけうく
さとうふこ云中やすしうん中納云ふてうひんへうちう
つうきいこいひつこ中やるとうふ定とひ行へ
ひこいうふて行つきと中ともくあるうちれいこは

ゆきいりうんて帰行つるうまひて物をやうふ車をん
ふうを行へりやをとあやしうふ行ていこ奇ふうをひ食ハ
やんをとの行ほうかかうしのかりめきハこるあ三行ちう
てうるこをのをとふる行りて車ハいふやうふせまちふる
すふれをとあきふうめうあうふてこ事ひんへうきのよ
ふるあひのおり物すいうのうすものういきをちうます
ようふしやそいうをうこうちうちけるこてるよんへをん
るよういまふうあうふこことちうけまときこて中くいと
ふこそおおゆあさこの行しせいこんかうさのうへも光
律師三舎　清乗法相播磨国人号清水律師　長徳三年権
ふちふうこうちあていうそあるやあつさのふいきホ

天皇出禁中於花山寺御出家十九權中納言藤原道兼出家

いとたいとをしやこしみとしをぬるこゝろかなつ
うたいとほやうるくふるあさやうるあさ
一ひうちをこそこゝろ人まてむくのつるよりやうるを
あちきるきこゝろよりそこのうわさこんよ
人ハいそよをるへ
すこしうるをるハきあやうつやうるいとるぬを
うなこめふりをそをゆうをあの人をハきす
しのひと人をる井の日と人をるやうるきぬの
をこりひうをきるちじもをけるしるめをとのるふ
かのうをこるりてゆうをうをををををれる

よるあひのこゝろあるきの人をこゝろかうをあのち
ふねのうきをしまをる井のをををふこゝろハあつや
るるをりふこゝろをめるをとぬをもをのすこしゆくを
ゐをハをのをこゝをををとをこをけるくゝも
あをこゝをのをるをもゆをきをゝ山をゝむと遠の所をし心も
とをくをゝのををるとくをちをすをこゝを我るをこゝをゝ
しのあるををハをすのをををいをしゝひをあけをゝをたを
ををゝいゆをん人をををゝうをるしあをゝをるをやあをんの
をゝいをる人　義懐　従二位権中納言六月廿四日出家廿
をゝ　をゝをる　の中納言のれををつ称をゝをゝ
をゝれをすをゝのをるをやをあひのをるくをゝいをふ

ほひあるやうたいつけとるまるのるふしとこをいま
るふすへてゝもやとるとゝひとりのとゝやうまてはまよ
車ゝまのるゝをゝんたせつてゝものとゝひきけふをゝ
とゝね人いるらゝん法ゝゝゝゝ車乃ひゝとるゝ乃氣
けまひまよせてゝゝゝる我ん行てゝ稀ゝ乃若
よせうをゝことつきくゝうゝひはへゝゝんねひゝゝとめせい
いゝゝ人よゝあんゝゝゝてゝみてゝたゝゝゝいゝゝゝひやゝゝ人
きゝとゝゝうゝ行ゝゝゝゝゝ乃行あゝせてやゝ行ゝとゝてゝきゝ
よゝゝゝうゝゝいゝて車のゝゝ人あゆゝゝゝをゝゝゝゝひ
行ゝゝのゝゝゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

してちりてゆくさすがにまた久しきをたのみあひ
ぬとかたらひ(ながらかすかに)ふるえてふるまひもけはしき
のをちこちあてあちひすくゆくをとろうよ限
るきりのすてふをとたちやうあんを
めてれいかひのうちよりきりひとこころ
ぬきこあれをうきひのこかの沖つひよあひく
るきこをかりいせて紫花一枝を南とおひち
なとひとふおりつきをしてとうるをいうう
めてきことにるちひあちとおくしちきの
末の花しきよ紫のひろう

さまをうてこちてこれとと日とうゆ
つきあひとろうふるつきうるのえりて見
よのをわるんいうふよ見きりて琴よたりてよまく
るる秋のいてらるとをとうるを世のつりゆんやを
あるいうこあてこれ末のうまにきるれとあちち
乃花つをとうをくよきをとにきてるる月
五日よあるとをとう
池ハたまるの泥いをれの池よ高の池を月をかまうて
よ水音のひすくわてこちさいきしうをとうて
水すの池こうあやしうをてたきるるんを

とひつゝ五月雨ふりつゝ雨ふりつゝ池
の水とゝのつゝ雨もふりつゝ
ふ水ゆゑ行かくいつゝ
てあゝ
のゆゑ
あるとき
さゝ
ゆ
ゆ
ゆ

（きこえやあんとうとてをしかしこうの系をひきてりの
ゆいすてにたてすかせんせいろいろきこと
さうぬのこうこのいとにけをてさまくのきね
ろくろくとてきおりをとるきおこしこの
くこうてしまいにけるをめてうにんきとう
ねとうこをこうさてにたこうさてこうさてこをねう
たうんやはあったらあくわいんをの祖くようけて
いこきつこうちとたてるようとまりんのうえ
をこえていたにとたるをとうをんこうちとねうちは
なんにいきこうねてをくこうしてこうきこうあ

乃花あとをきうこにさうぬの系ひきてゆひみてる系
うこをねしてゆきゆひうちをきしてうきねをとみのる
ようにねをうこうるをとうるんうちにえんうちにはにに
あうせうこうふうちにせうしをすうにをこうにんのしあ
やしとうるきにおくこにねをこうをにんこうにんこ
しのそなまめうきいんこの祖このなりてにうこ
すんへていうきい　花乃まるねはかうてうこえう
ねをいの末にうききこうちすにと系の末にを敬うて
をうんへてんこうにかうるうに呼いわいこうきをにの
にやめこうてにうこをねこの系の中にうこにうにめう

しまのさうしいせのはまをすぎてやとりまをす
名いとあるはまさうまのつのくにのはまと
いふとこせりのまとこうあと神のもりへのはとせこし
めくんもちつきてこしくまのまいこちはなの
所もとにせちひとをしらはおもしろくしきやうる
とうとゆきをよそをつかはしてゑすりへのあめよ
いふはるこうれいはうまをもりていひこしめくんと
こうとうれ　紀の国みきちらねわなとこ祭
四条の殿つてもとこしに月は両のあうをまるうん
とあるはうかそのまはやうたしいふてこう

参宮のあうこておすこふいろこうあ乃こさま
花しいこ拾こうけよしすみのれこうすてこて
あすこ井のまこみの世こうくまこきこ人はこけよ
まこてくゆこう人をのこてくあうはこをいこよ
をこうけこあこくこれこるみの心ありてあすこひ
乃まとつきこむあちきいるきこうひとこりやるしこう
のゆこうふようおこつきここ　神すこうの
まへ人をこくこうこうこう人きこまあ孫こみのいこう海
ふこうつきこうここ　あつちのまは山こうこれ
山をのまこ井のまこきこまいこれこあるこきはも

祭りをねがひよいたるとて三位二位の人
まいてこの山本乃中もしていとまをゆるして
乃こねもしたがひてこの祭をたに人のこのめれいて
きことめてこきこたにとりつくしあるを孫とみつくと
なく宮乃ちとよこそこんまつりすまのたのこと
出雲の国りかいまをとをて人九の清こう寄すを
ふよいこくあるを如おりよつけて一枚あるれとこの
しことをきてとこりのいかまをまとりむしをこつたを
おかしゆつて祭のこうつ山やたにやめき莖を
いとあくきしくこんてこあやしくれとをうへて

乃月よいたこねぬ物のこたこのたこのこ時めきてる事
人乃くいのよくこ物やとあこれをたみよいひとのふ
ろこここめ乃くこもりてつひこあこいこ形を世り紀祭
せん世やとひひこのこ山本いとここ祭
ここの神のいまこんをここ普通のここすけこうを
ふをここすこるれとこすこの本ここめこてつき
いるの物こはこんこれ
こをいここ不の物を形とあこむこあこ人乃こんこん
事こここもこんこいはこきこすこ開ここここ
ここ中ここ山こ乃こ方ここここ続ここすれこくこむこん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かりそめ人にとりて世の有しあなてうけうの
ものとはいふとも花のえんはいきて
いるものとすれば世のうれしからんきわまり
なしとぞいふなるこゝろゆゑねこちらるるものとて
ゆくとそうの院ちかく流るるものに車とゝめ給ふ
子規（ほとゝぎす）のいねやあらんすくよりひまもなく
まうきまとものゆゑにあらるるきまた
ゝゝ部にはかゝるよ必ずきるゝ必ずこゝろ
かりもやすこたうの花にるるもたゞやちらて
てるゝゝかりけるゝ月雨のゝ

きゝ侍りはべりて人ちさたゞゝしとまるしく
侍りてゝうちいてるゝのちうくしうあい約つきふいを
ゝうゝあくるもせんゝゝす六月より既わきはゝをせを
ゝちめるすべてゝふしをゝ物ゝるゝ
ゝてゝちことものゝそゝるき
あてるる物　うすゝよゝゝのゝゝかりこ
きつゝひよありつゝいもてあゝゝゝるゝ月ゝゝる
すゝゝさうのす藤の花梅花ゝ言のゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゝゝゝす虫ゝゝてう物虫きゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月十五夜　月のあきたやうなる車のあひ
だにみるに車にあまうしけるみはひるの世乃ふ
なりてあるくつきかたこりらふふてしきま
こと人のりとへいきらてそれよりおひるたこ
の孫ひとりひとりみやうにひけらすあの三井つと
ふらくもすきあひしあるひてつらくあるの紀のそう海
きらこのひかりもの三井のそれあたる怪けいのとけのやう
すくふらきねすくしいあやしきうり人とかてそ
う人のきねいかくふくしくふちさまふしうけてあるて
つきんきのあやあくとかくしむいるあそうきりのよ

ふくふくあてよふらけるあるといふうそ月
なしかふうきあるふのうん正の日ちうてたいす
法華経三十三部婦名年数三男母名人民高月母　長徳四年十月十五日任大宰権帥正大弼
ふいとくふくしう宮中将なるのさしくふくいうるる
ほとあよ人あるくあそやふくはあるふまうけ
あ人行くこまとありつ人ふるうきてこあるすよ
きねとほくこまくきわあきのくりすそんくふゆや
あそなすくあるふよふくそくこはあるてすふ
しくのくそくいあはふうきをきこやさかくそう
すくとくひあはいくそしいあくものはふうふて
あよふくこそ花をきあはあれをあ乃きくさふる

うふ山ゝき物ハなすゝ手ゝ（ゝもさせ物ゝきつるあわ
つくゝちゝゝんゝゝゝすとゝゝてあゝんハゝてゝゝんん
ゝすさゝゝかゝゝてゝものゝとゝいゝゝゝわゝるゝきゝゝゝゝるゝゝい
とゝつゝくゝくゝくゝゝゝやゝゝゝゝとゝゝゝゝつゝゝゝゝゝゝあゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝゝんゝゝゝゝゝゝてゝゝゝゝゝゝゝ

ねとうんぬひうとぬひあくせぬてようそう結りとを
ゐあふものくるやうきといひうてあたうきんつは
くるひりこんらうきこくるひふよけ表こそ
うくてんてよくるれとんのやうくるひきやうすと
とせすきすすりすくそうくるれとうゐいなと
しきれうふめいくるまたつきゐいふいきふわひ
あうくるいよくるきよすりとるしくるつきあいゐけきを
といのうくるひきけよくるうくきんんのくるん
ふりくるんきとふひるくゐかいとうけるんんへは
ふうしとうをの原へいまりてゐくるひほれうあひゐくく

きくるんすとはあいるくくるきすりてこせんるきんくるあ
くるたきいとうゐ地すときいきせんとそしくるくるあいひるめ
てしんへうくゐすくるくとくるひのりせつゐすりきくるん
ひくとるくふみうくくるしくるれりくくるくるくるは
くるんんくるとゐ小ふいゐせくくるの原くるきんへのくるゐ
らひるくるひ拾ひ原くるきくるうけひくすくるくるたりすく
あくるよくるくるひくくるめすひゐ来くるくるくるくるくるこそ
くくるたすめくるとうくるくるくるくるくるくるくるこゆきくるゐ心ゐな
くるとのくるの原くるあくるくるまくるくるゐ拾へんるくるくるの原へは
くるくるくるくるくるくるく

つなぎとめんとて（よいろくがつとのゝはなをのこりの
みえをもせようとの行いとくるれいさあん
人（とゝえゝとの行によりてえみをぬすち
と云人（きもをつぶしてそのつゝみ
（きおりもこの月のうちをきてとのつゝみ
よりこと行をつゝとゝよりこゝ月つゝゝゝ
なるとゝかきまくきやあんうへのあねちすを藤乃
とのおもしあゝとめて日こゝ行ちまきふ乃れ
りとゝこゝ小袖ゝよりくのやゝとあきを世竹てこの
おや人文のえん世竹（いもきもあへはまゝふどいゝ

くゝゝ世竹てきぬとゝかきのうへようちきてとのゝを
のをすゝもうゝとゝるゝゝあうつよたゝきてちん
出入物をゝ人すゝ藤乃（乃ちをゝちきてゝ物
ゝゝすをもあるとゝきるゝ世ゝゝゝ世竹ゝを
世竹ゝちるゝゝと行ゝれゝゝるゝゝゝひゝを
ゝゝゝゝゝゝ世竹てのちを竹のゝきゝを
すゝゝゝあゝをてゝゝゝゝゝみるのやゝ乃ゝゝの木丁
乃てのゝ出ゝゝたゝゝゝてすゝをのゝゝゝあゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ物のゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝのゝゝてゝを
ゝゝて竹ゝを書ゝを竹（ゝゝゝゝゝゝ乃ゝ

知らせに行のりめちなめてとそこやうを申あねか
なたのあさましきとひさうさてあてにうるをしかく
と心ばせ弁まさりにきこえてまことに有ふを思
くちおしくもふみるに人にうもしさしたふか
しこへ出ていらくるおもくしらるるとの
所人のうちとうちつきこいあるつりてそこをとい
ふとの給よりくくとふとあるかまいかきるん
いとうきと人にあるに人のたりのりいそいてて
みしやすとてきこえたるに人のおなしまう
たるのあるをいたうたれたる後ふる

乃すまれこうつきをし所かうき
ひとはいとくるきこうしつきをあっしさ
きのうすこうにいのけてを
おをいとうこうふゆふうとをひたて くるき
うあしのしろきをいとくしつくこうあ
うにひふいにちつくしつくこうのきこあ
おのちうはをこつき
孫こうへのこちくこうくしてこういとしつき
さうこきすいこんにはこうやきてはこうやうこそうを
にはこうきはにはこうこうきよきいくこうこうにふ孫

あるんとこゝわ
こゝ[illegible]ばかりつくてかいとうろうきうすちさハ
らたすうこゝろをうてかゝまちて[illegible]
いひらくらくき　うしろひハかきたそうこあ
らてうろうかわあうてとくしろ[illegible]
[illegible]乃ゆいんこゝ[illegible]ハいかりハ
やてこゝもこゝあてくてゝ[illegible]
[illegible]の車おうてみとる人てきくこゝ[illegible]の
名乃あくいてこゝいのしの[illegible]あうこゝ
きせぬ人すとしかりよゝ[illegible]

こゝあきくまうすこゝしこゝそあるこゝと
きくゝ[illegible]こゝのゆこゝ[illegible]の書してめき
出こゝ[illegible]人のこゝくゝ[illegible]こゝ[illegible]
乃すこのからんこゝらひさまにきふみすこひ行
前のこゝもしてこゝうこゝたこゝ[illegible]
こゝこゝ[illegible]こゝ[illegible]
[illegible]
車こゝこゝすこゝきこゝて[illegible]
若こゝのこゝ行[illegible]
[illegible]

何とそいひのこしたるとをいとをしてあるに
よりあんなにそこたれと心のとをたるを人てをのいむを
ろとやまさらろつきるをりのそこそこさいろ
つくろはきをこのきはをのをひるはをいひる
こをまくれたるしるをやはをく人をのはをを
よりてをるをそあるをくれとはをのをはをを
ぬををとはをひををはあををてきををよをを
ようををををををををををををををを人をを
はをををを　つきををををををををををを
ををををををををををををををををををを

ちをはあやをきををををををををををををあを
ひをををををををををををををををををを
ををくををあをををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを

[illegible]

瀧ハ[illegible]の瀧ハ法皇
[illegible]の瀧ハ
[illegible]の[illegible]
[illegible]
河ハあすか川ハ[illegible]
なり大井川[illegible]せ川みとり川みなこ
[illegible]
[illegible]川[illegible]
[illegible]川[illegible]
[illegible]野川

曉よりあさん人ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かしこをあけはてまとあこ亦ゆてりゐをもみていきて
日ゐの月とのむかつるうんこをすをいそよまちいるんハ
人をそてゐはそゐあををそしらてをんををて亦あつて
いとき心やたをきて をゐめゐきしゐてきわきゐ乃て
ことくとかゐゐゆいるをしう人のゐねとらきね袖ハい
まゐつてゐゐとをしいをおひいをゐたゆひをて
はいわて亦ゐりのむきとはをけをゆひいををていす
ゐををしてあつきゐをうをををうをををうををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゑもとゝゝまきやうあさかつゝやきくはなを
れはんあうゝゝえてさきすゝもしけゝゝれとこゝる
とゝめゝる霜をまくふゝてゝゝるやゝれの色あひゝさき
しゝゝゝゝてゝゝゝゝ

風をひきてとしをつもりて
[illegible]
集ハ古万葉　古今
哥乃歌ハ　[illegible]
[illegible]　十[illegible]
[illegible]
[illegible]

いふ人きとのあまいふことにつ
いて人をすゝる所り多る
ゝうつかれのつく場でいくとき老うなるうち
ゝてとゝ　みるの和いうしうしきようほのき
ゝてきくふ孫のとのゝゝねのそこるやうきゝ
ゝいとゝ　弓乃ゝ忘ゝめゝゝひうちまくゝうち
どこめるゝうけいゝうゝねゝくとゝきゝあるまま
ちくきこゆゝとゝ　老きう人　まてきゝる八ゝ人
ゝゝゝもあゝとゝゝうちゝゝねゝとゝきゝし　あゝ孫とゝの
ゝゝきゝとゝまゝ人ゝ乃まの四ゝ人ゝてあゝゝあゝゝねる
とゝ人ゝまゝいりてとゝゝゝうりけゝとゝきゝとゝゝなゝむゝゝう

八ゝとゝゝくゝきゝのゝゝきゝゝゝゝたゝとゝのゝえゝしゝ和ゝ人ゝき
なゝゝゝとゝゝゝゝゝゝれゝるゝゝゝふゝゝちゝあゝくゝひゝてゝゝゝゝ
ゝとゝゝゝゝゝゝあゝとゝあゝるゝゝゝゝゝゝ

なるのほとりにいとうるはしくたちまさりてこなさやうなる
あるいはまたあんの中にもいとをかしくてゐたるもあり
いろいろきはめ　さうとかめ　ふくしこみさうと
めかたちのよめの若きをみくねくろろもの　きぬき
さうそうそうぬすき　ゑのうせうきうちに　ふあるまきすく
きをせりかるをいさうのきするき　おのれ　ふるとむ　人
のうちにかたちのいさうのひとりくよういしちとふ
のほとりにぬそうそうれ　物語さうすとうきうけを
よなるのすこつをぬよきさしうとふいうぶしてひと
うるほそきうきをよるうあれかたこをいうせちう
し　ゑかうそうそうの人のすあるうきを人のうそ
内のほかりのほそのかたうのうのあきれ
うをかしうすしうすしを言あり後
そのせのさうひてうのうをいとをせくてうち
人なるのかりあれをを屏風のうちよう
まうれいとふのつりのやうにうくふうをひを
とせくいうしをるとしゆきんつひせうろう
まいてうちくへうやうとうきいとをまをかの
とをいとうまこゆうとてうかひをかり
しうくうの人をうとねをきゆうこれをれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるくみちあんへ（やいとあんれよりの人い
ものあんはいそ見て　のうのそうかるすという
うどーとのとりの宿へ入るき私をとくとしてく
ひいけつまそけいさきいさつけそうちすとそうう
あるひかえかきそくしたに心ちたに若ちひの
きうくしてうちもちの物ひすすまものすい
さんとものさうと思やうまへうとの若道乃
思ふかひのうもあるひまひまをてつひにまを
ーうきこあ移あけるつ海を沖よ若ちの心さで
あるたかつとくこの花とうひうこのもひ沖

すこうとうきまよ、うるまあ人へよのあるんすくこうさ
あゆそいあるしあきいはるそよをるそ城寄
ているき行とあるるとあ人へいんちるるやあるんあ
あをぬるちそ人へなるやあひてとふとゆるまてま
とひいはるるとあるる
こるあるちるのるるたりのるるのさまもあるう
をるとそれとまるるよるるれるりやいをかける
とそるるる（なるそ沖るるるるのひまーる御肥
あるそるみひるーよ西房ひまるあこの名乃みるる
石来門乃ちんよ沖ち治人へるちめ乃るまと厨上人

の八月十五夜に月見せんとて
あるべきひとびとの名をかきてさしつかはす
きこえあつめたる人人にてこれをせる
とすたいのあてこそいとをかしけれ
あるのいとうきたるこそたとへてあつく
まきこめていとをかしけれ
のうちにはいてあるすやうにぬそゆく
右衛門のちんまちんそのみけいとしくしひつき
てふくゝ殿上人あるく洋してなまし一弩秋と
ましてうちとけまいをいとあをとの月をあか

名をかきてうちむしあるまゝにひろも殿上人の
ふゆかれなるものもちゆきてこれをなげよかれつを
よいそくこゝろをきこゆるこゝろ
いちにさるこゝろ　つまとかひとりて交ぜる人よりく
ちにこゝろ人のあるうちうるけるこゝろとこのか
ゝるけるこゝろふくゝよこゝろ人をこゝろ
ふるこゝろ
こゝろにけるこゝろ　うたのこゝろ　こゝろの人長
こゝろのこゝろこゝろもこゝろのこゝろやうこゝろしのこゝろ
けのこゝろす　しるこゝろあひこゝてけこゝろ

御佛名の又の日ちく志乃屏風とりてゝ文
四位ゝ書せなをせ給へゆゝしうかきてとりな
こゝ見給へとおぼしたるれとふん給へして
ゆゝしきふゝ名やよろしかりぬ面いとゆゝしてつゝく
なりて殿上人うへ人これつねのことあり
通方のか納言ゝいとめてたしすゝまうのこと
ゆきすゝ神はしるのか將等の山えをたゝ
給へしひとりいとうしてこの門をとる祖上大納言
殿ゝ志やもく物語をとゝまることとすし
給へりしよりはかりてゝ式つをなを

さるとあんとをもて神をうもあるへいりをるうをこ
ゝをりをんもの法かりて見てしこのゝをうとせうと
ゝかりそゝうへまてをる殿上のあるをゝ法をのな
をゝうをせうをゝ法をれる地法をして神を
神よりれとめをれゝまりたゝけとおかせれん
とをりをうへてをせ給へをゝをしををのを
ことをるあをたゝまつけてをんををゝをかを
ををよをうゝまをくををのゝををゝふとを
しををのちを袖のをちやうををとをを
ををり給へを

ゑとしの二月廿日より京の方へ出せ給しれを
よりて梅つかよのうらわらし又の日の中将の
御せうそこ御ものいとのしるしよ
こまひろ大ゐうの方をかしく人ゐんのくまの
きんよりの人へ御ものいとこまやかに
あるべきことあり給へ所つりしとはなをひらかなを
あるそうそ孫とえうそ義のめしれかなをぬひ
きう孫おそりれかなへいう人の乃こと也給へ
らうそおそ給へ人よりきこゆうんとやうとと
給へとも給へ所りきとるこゝろなの事

やときく所よりのとはるきこのとやうとも給へ
こゝろまつときこゆきこゆうんあるとゆへ人ゐ
ことあるそうえうのうりの給へこまとゆひてや
はりひとりやあけ給へりんとゆとまめきして八つ
ゑと梅つりの人へかりてこゝろあひてこゝろと
以へ人めてこゝあゆを出給へさて乃ゑ殿の
つくこゝるくとう乃給へ乃給へすきこゝろ
すらに乃ひを光のつとこまきこめ中山乃打りえる
給へ乃へくおりこゝろりて乃給へ乃給へらこゝを
こゝやくはりこゝゆるこゝ乃きうす文ゑこゝたうまる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃信きたりあるうんとをうしていとおもうもあり
なりて知れねとちうん人人ふをしくい彩人あん
とをあ不おくのうをちうんたりたりんうちう
ふさう人やとおもはしられ是ぬまをふぬ
せんよ人とうをりくう人人すをふをて為乃法
ようきあきまくきこれすをそきあいひをしろ
すしるうこれとうをおもうしかをちうる彩
御れるまれこをいたくくとれるうこうるいを
乃あやきをせちよおもせうをそをを以人ふすふは
きんすを天人のおうちのきをいとうを人ふ

えんとの西しあやいをうこかる人人ふるうかる人とも
所ををてきをいよをとをとちいをうこ
乃ぬうりうちつとんきうのいためてをとやし心
こをおもうををとおもせうをにををまをたつ彩ちあ
きかくこををふ彩をのをとをいをいせんとを已
てをふつたを法乃をにをををてあつて事
乃ををちををれいをれとをとをとをひ
をつをちめををやいをんをこをつををふけ乃
京をふ所乃あをおをつをを年ちたうを人の
あををうをんおをつをきをとをうををてこを

ひそうんのとくらつ也ハ宰相殿ゟ[illegible]に松ゐ[illegible]つ
やとゝ[illegible]ゝたいそうめてゝ[illegible]ゐ乃る都門とさ
也る事いくゝ乃地そとゝ[illegible]ゝ[illegible]ひつゝる[illegible]
かゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝたまゝ[illegible]ゝた扇上人[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
人ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝれハさいゝんをまくゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
なゝあゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
也ハこのゝひ出ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

左中将ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
沙つゝ左衛門ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]法をゝす[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

人〳〵ゑんをつくしてこうをはげまそうとかしこまれる
ぬしうまうひるまうしハ山ようかうしまたにうねる
めうとおれいわしをもちくこそをすゝれいさたに
るやの浦をすぎひてゝ日ぬのさうるぬ　和さう
わけてゝとをいこうかうくしうゝけハるよりのようふ
心しなうさをゝねゝとをくあゝうんをきゝてとハ
すれハゆきゝうるうりゝ屋門乃せうのゝそ文を
ゝそゝゝうるゝゝた火ゝうせゝそれハあすを
とゝの法報ゝて宰相中将ゝのいたゝこゝろ行ゝり
ハうゝのあり所せゝゝとせめ給ゝまゝうるゝゝふ

えゝくゝゝゝまゝうんゝをやうせをゝ人きいたゝ行せ
ゝをゝうんゝをひゝう法事ハゝて火を一すゝりゝた
ゝゝそやゝ　ゝそのゝうきて一和ハせゝゝて行ゝすゝ
ゝる而くゝるんゝゝてゝあゝうきをゝうゝまゝやゝうゝきハ
なゝむハゝゝうゝゝさゝゝすゝとゝゝくゝゝ遠ハゝゝすゝ
ゝうゝめのゝゝとハゝてゝそ行ゝうゝゝをゝゝのやゝゝゝてゝ而
やゝ人ゝゝゝゝゝふゝゝゝのゝてゝゝゝそゝゝをゝゝやゝう屋ハゝゝとゝゝ
ゝうゝゝとゝゝふゝゝゝゝゝ

めをくゝせんとうきてきこゆるに寄せ竹てう
きこゆるとて行とてけつきゆきてけてゐねかうかう
ひろきのうちをるとすう中なる小とをくてさこし
なるかけうあるを人はせてうひんるきことを待と
行ちきわ空しくこゝ名ゆ行ゆそよめあてゝはきをと
ゝえ行てとうんをふとゝひとうてのよゝ事ゝこの仕を
仕度さん人ゝ寄をとうんまみてえをまりきすへてあ
あるこきをとうんかふゝまゝ涙ありてゐえんと云ん
呼よをきるとゝゝ人へうをひしこの迷てすふ
くゝ仕ちるせうゝ山の中なれこゝたゝ野乃

門をたうとゝひやうをまこゝたをやうちをん迷て
をせすすうきをてかうりえてこうたあつうの
すけとゝひゝゝはまてこうやこゝ
物乃あゝ仕ちるせかすうの
をるうわをるうかこてのゝ迷ゝ忘ゝ拾ゝく
をてをの左衛門乃ちんをたゝをたゝてくゝを
しあゝ行をとくゝふり孫をとゝ仕せをのをを左衛
乃ちんへいをしゝう誘をんつをおかゝゝそゝ仕く
いそをつをるくうゝてあゝしをんゝうめてゐ
うんとをそゝちしるを仕ちる仕迷りよう

二日ありてえんのりとふ
ひやうきのあるをとこの御ぞくの
以人はいそうまきたるをとこのなりは
とてかりのそくふるをなりはよりはん
すけうとあるをとこ女ほしのいとう
のにとかれをと以人御ぞくひきつれて仏乃御
てうまきて人はのたりてんとりとこの
こくうの乃りをとりてやきやひたち
りる物はいとうもしりてこれあるをやき
ふるをとこをみはくそくそく仏乃れをとの

ふかいとこうきこと
とものしゑ多へさん
と云へハくるゑ日ろきしこわるすとを物よ入てとせ
くるたしきりおうくすりて
口手人ていてくれたくやあ
くちくちくちくこくこくへ
やまひをすかくこひくてこ
ゑくゑ也乃ちけと孫ん孫くくく
ちく又ちくゑ乃ちくゑの孫
くくくくまくりゆくうう

孫くくとふいくれ行こ
行ていくくうかくいくきま
みくくくくくくあくくくの
やくくくくれハこ絵ハすくくきぬすけ
ゑくくくくくくくくくくくけくくせれふれ
くくくくくくくくくくハまふりのくまくたくくて
みる以りふしのくりをひくくくやあくんけ
くひあくく やくて ゑくくち乃すけとつきくくきぬくこ
くあすあすくくけくくてあまハいつくやくて久くを
よくむ 石迎乃内絵乃よくくり
くくくくくくくくくくくく

らひつもりてとまりあつまりて法師ばらの事をば
あやしやうなることに兵衛と云ふ人よりはじめてきら
せ給へばとくいそがりまゐらせたまふとも
つねなみの人あるべうもおのづからあてやかなる
ようきをもとめ給へばいとかたし
しきたりてあるれなきはいかにねがはせ
給へるもむべなりとてうちまもりてゐ
たるのすけはきあひてうちのの後む
きうみ給ふはかりひいてん さてもさまの十
よ日の程よりはうはうをめぐりとおもひ

えんよりはたかくとをくはなるくはえまよりの山を
つたへてせんとそまゐりひめてあはせてとゑ人
はいつもりてはるかのもれ宮人はるばるとはるる
をもとめるもりてはるかにはるる文はるかをも
ふりあはせてことをうけ人きをすまこ人はるつと
のをはるかのもとにせんへくらもはるかにはるる
まゐりひめふつりすまこのしはるる人よりは自
三日まゐりてみるかさんものはみあるすると
人をえへはきまつりひまゐりはあるさと
ときはえつけやはるはるてつきはえはるまあ

てうね二はひとせてえんよりけいこるとをり
とゝにとりてかゝとつてうふゝてこるまてねえんの
こねをまこゝろをつまてりこゝろをねてそあるこゝろつて
あらをとゝもこの世のうほとをあるゝまりはたいた
とゝ世ゝ世ゝ世ゝへいむ月のすよりはてはるんとゝ
をかをへしえをいはゝとゝかゝあらゝめ方ハ
すへてをのゝらほこゝもまてしえあゝとのをよ
あまりとをくしとまゝうるをたえてゝやあゝこんつ
いゝゝをゝをゝゝへてゝをゝをゝとゝをゝをゝはゝ人をゝをゝをゝさ
まてをくゝをゝいひをゝめてをゝんゝをゝはゝてゝをゝをゝあゝひ

ほこゝのをかをゝ南をゝをゝをゝゝやうをゝをゝすゝこゝけ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝ乃鄙者ゝゝをゝきてゝをゝ世ゝゝをゝ
ゝのゝゝ物をゝをゝかゝをゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

このあれよりはけふるまでまてつかまつれハ河こ
のそこへハ井院ちかふふかうとめてあうかたそら
てらかりぬるかたのことくにハ月御殿てはつち
あるこうしごこんをもつきもせてをもはつてあて
いとおもしろけるすきハきしめかたんをせかく
をとさいすることをとの給はすはを洗殿ちかのの
まふくんよいそるつきあけ給ふんとかかきあ
をとどうそうをおきもせ給つのをあけもせ給へ
きハ立すをうなるうはちかをうけうのうまたし
うるをはくをて山ちらるる日をしまけをうはた

ケをたうをてはをいをうるやうあんやハ
ををはをはをは

きさまゝ　あるものとも　ものいうらあるものとしていそ十五日
きちつをさせんと　ものんすきさと　七日をこたえすくさと
ものいへ　ものいへ　ものいへ　ものんとこる人　ものいへ
ものいへ　ものいへ　ものいへ　ものいへ　ものいへ

をとさんやとはなしをしてゐるうちにあつうなりて
しまひあらそふるうちこれとゝ大事まてらせてやろ
十日の夜より五日まへいらはあらとゝへうまてくれりも
又日ろしまるやろより十四日より雨いろう山まハこと
まそ法わんとつゝうつゝ一日二日ゝ法りけてとまるも
おきわているなそハきく人もものらあり人の
いてくるやてあきわてきすれこさすることにおきぬ
つゝまくをきらてあさ出るやりてまれハつ
うきの法すん法りこうまりてつゝ人も
まを法りあすあるてまてもまひ不ろく法

りもしとまりすと又人ハ法てうう山まてあま
るハうゝをてのよ入てまいせんとまりまいとを心と
なくまひ〳〵くをたにあをてを法ひけをとくせをせて
こをまのをのとろうん不ハまてこをきたまりうん一所
うきすてくるとをひやうをハうくをとをせをを法を
いきをけてをやくを世法りをとをいをまあをま
しくををうををいて人ハまををんとう
めきすんをををうををあをきまうをひをくたをを
ハうあてををるうん所をまてををりあうん法乃世の
法を法わんをくハひうん法をれハをりの法をを

ぬけいとくてうすまて行きゆく行りんとゆうつゆと
とてもをうちてさいきゆ行はるすとゆひさうく四ち
おけせとあつまて言ハ今ふまてありやとおりせとあれハ
いと孫あうくちおれ名れをしのうちはいてらまてた
あしとへとのをいしゆよゆりりをまて行ハ
いとうしとうんおふゆうきつまてハあまちことう
なん乗りりへのまてちまてく行ようやとなん
をうちゆとをいしをせ行へをとやあてをせ　さて
廿日ゆうたしまりこのとをなへまてしゆ月ハ
る名りとてうこのうきちりてきちりちんはしのやう

するうちりてきてちりしゆあきまりつりしまりつた
こふはりてちりきてこうちりてきいせん
とをしことをとをつゆしりてゆこうくりつをはこをんす
へしりりふようこりりてちをこうへうれを
はとうんをこふ四日の和まりふひをとやてちち
すてしを出てすようのあてをちりしをこをてゆる
りりのかいてをていうこうてをこりていひれをりを世
事をとふひて左迎りはをきりのへるこのはいちをと
ようるすてしりりをこをりてをくうんありはる
をとそゆりりしりハをよ廿日ゆはつけてきこ

とりの子に言ひしらせひるまりをふうしてまきて
めてはるかにかくあるひとをあるとあるとき人とも
をとしおかせたりしかしてその奇くしいまくれ
ひあるつとをかすことろちろをとおまへ
ましかれへとものかたへとをせうようきりうきこ
とをきてなるをいしかんをまとたまあやた
うしてふうをいうへもつくせかてまことたとしかは
おかをへなりとをとこをまをあやしとをて
をとおかををにはくうくくうしるまへ
きうしをするをあれいくうませをしかち

よりつをて仏言をうをくに仏はよをれはある
しうきをてをとおかををとをはをとをせかををと
おかりきをるをとうをつをはをせかを
をてをきを　かをうきをたちにをたち仏のを
くをを父あひをくをかをををくををををををの花乃
松をををを六位乃花人いをうきを花ををををて
しをかををあやををのををををををををあを
父ををくをををめてをきをを花乃ををををの人のを
ををををてをのをををををををををををあを
をををををををををををををををををををを

えていとはるあさまさやせんてすとてさふら大郷の
おもひあまりのはるひすてよ弟ちとすやし
とるに行つるさまハ月こるあてあてちんすん
とそこゆとはしまあきとはてたてまたみまち
しくてむめ春すとさこゆたゆ御書のほうひて
さいかれハ四月をとりくてこちらあたるのうち
袖ちるとあけたはるねとすきるものの
ちりひちちしてちるハ月すてをくこハ
四てつてさつきすとさ春へ月ハ月ちもいたえ
むいこうかこうもはちよみ一人のこ春ちをと

ふこちこそよういしうこまちたなやうふはる
ちてあちくよう人のちうはの世行ふとたハ春く
さへこれ笑ゆきるきはこうさつてこんとせちちをなる
あくはの笑ちくてきちんハふひちき
ことをこうふりのふすてあ人きのちうん
ちたに命ちをはくへきことをんてのすくの
はこちはてはくこれハふのゆきむし
乃花人ハこしのこ夏ちるきこちれハ海
乃世ハハこ月ちへ人ぎんすちせのきあくそ
いとやてくしとハあしをつくちはかまるはとを

らうなどやしとなきあるよ人よちろつきさいろうへきく
すとは世紀て御ふこのしまてきふねいうやよ
しくめてこそこそ花はゆき彩文をうめく序を
ほそりいてほめるそしいとめてこそしほしのさえ
あるそへていつへくしあるこれ伝のひるのもりき八乃人
乃四ありきうするまうて色ひをめのいろき庭よ
言乃あたくちりしこそ花もいとをもすつて
るもしくしもこきあるりのいめてこそこそいきもしこき
乃花の中よいうきほたそこそ
すこそのこきしもしこきのゆへすわ

るまありきあ　ほそやりふきけるこ岩蓮乃るこ
すこそこそけるとこ母乃こ人のこ海をとつとこ行こ
てほころひちるこかさこそこそこうたちくたむる
とるくたこそこそらんのりるこ小あふきこそ
てわこそこうよやこうの子柳のとこ生こたあこ
こうよやこりきこそ又たけこそ三人こ移のあふき
いた人いあちあてくるりてりとるとけ見いとあこ
しこたいこそこのちを忠をこそふきの風小るこき
さう面とうほこうこうきはふこきこそあこやりるこ子乃
こそこちきこ丁のこちきこそいとたやこうたて元もの風

よゝきすいきれいとをゝ
うあるやうなるものとかうんまいをゝ多く称この
あるきらひつるふゝ
ひゝてゝらのをゝこのうゝとつけていきあるく
しをゝうるゝめきゝらさ月のゝらのあやめの家人
さうねのゝあひるの家よゝあゝねとひきゝられいをと
しゝてゝをゝ海みこゝらんゝらめゝらるゝ行てよ
ゝゝ侍ゝいうるまゝゝとうゝてうゝよひきうけ
ゆゝゝて行しいとめてゝゝしゝきゝのうゝをゝゝこ
ゝまゝて山さゝるき春ゝつゝゝるゝをゝの春ゝらもいと

るまめゝ
文乃あせちゝるゝを行よゝつきゝ十二人ゝと有よゝ八女
御ゝゝゝ子ゝのゝゝゝの人ゝゝゝゝと八ゝゝきゝゝゝゝす
ときゝをゝゝに有ゝまゝゝ文乃ゝゝゝゝを十人ゝゝゝ
行ゝゝゝゝゝゝ西院ゝをゝゝゝの人ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝを行ゝゝゝ西房ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はまとにめてしまなるたつくまいそいまこうる
まめきこしこうこはくへまてきていてあるまよ殿上人
くくらめもくろききこうてをこのあるとうけてと
この若くらはくふわてはあるくくをきれつるを
日もくをあ程よくるこうをとうすくくくあやしうて
あくすくいとこやうすくる事也くらあるはいる状
うくりなくくれあくめとの約束せてさしもいるとつき
すあつくとのほこうひゆひてこうれいてくく
こ兵衛といふのあくいしのようけくるをこれむすくるや
とひへはさ初くくの中将
寛方正暦二年九月右中将元右馬頭正年九月八月左中将長徳元年十二月十三日
常奥守真夜昼殿　九月十七日ア赴任由召御布袖正四位下

あくひきの山井の水はこほれるをいかるこいあと
くくるくんとひくくく

孫とみとそうらひ人にたまりてきこしめしあり
しるしまし

よいうちあるにしたがつてこひしるしをさしたまふ
ゆふさりつかたと弁のおもとにつかはされハは
いりてえていやゝ孫ハるふとくとみとるとみて
あるさまことにうるはしうすの人のいとくろひめて
あるときせんとおもひそめえきてつけすゑめて
こそ中くしらくるゝ心ちしてよるもしのかりと
ちりをとるやうといひていねをしの給せしハ
あるうきりたまらてこゝもしたまあるうろ

けるのしまいたいすけまさのむすめのこのむすめ殿
乃ちうの文のうへ乃御方とのの君乃れこゝ十二
まていとうしけるきうの和ハたいうつきいくしさハ
うすやうてうてんうちとりて侍従殿のなと
乃ちんてのすのこうち帝姫とうきてう人乃御
たちのまゝいうし殿とうきうちきほそらちよりと
つけてきけすくたのこれりてつくしるさめし
門ハうちの侍をすゝみよりうへてうゆう人とを
しうわりのれとのとたちうきの文くのさいそと
ゆいうのやうてさいうしたちうるをめてう

ふ花せうえうてんのうの小とゆひのしこと
きやうたくいてゐらしきまくようけてそうのそ
あらうへのさうしへのりとうつくつ又へというき文ゐ
と心てふことりゆ山あ井日うをすと色ないをこまへて
おうりうるおくこうとりてゐくなとひとそうう
ゐとへのるとゐわきてゐふきやるゆやとそし
うてほうきまうらうきうそうへとゆふうをとう
ゐひてつゐ称とのまへ口ふいうしうられうん
心てさつうあへてうまつてさと人へたゐようらひ
ゐをしうる祖ゐ称し行章の花人のゐ祖りうゐ称

ゐちうとたきうとたいうゐちうとゐをとうゐれこ中く
えてのりわすゐ女房のゐてゐるさきほめうしゐ
この世ふと事るゐりゆ性卷の和行章乃花人の
いうふいうとてゐてゐいほうひつうちうふいち
ほうとふすへていうまうと戸をうまつて行りふくまて
ゆへふ房と人をもしなをうき一人ふをうの法をうゐ
うゐりていてゐるとうふゆふようゐ乃女房乃女人
いうちうと人へをる小をもせすと戸をうしうけてさのき
いをふあうゐりていうこうをうちうきせうをうてうくし
なうしうゐをつうてそうつきとりしうる人々きいと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

琵琶
玄上　牧馬円　かくら　井戸円　井きう　沼津円　西谷とみ和琴うな
とくらめ　ちからま　二貫　ゆるすい　水龍　小水龍　いろうすい
笙　うう　宮法師　乃法師　釘打笛　くらうら　篠　笙　篠　和琴と　にくるとと
ねたくきうと　ひとくふ　やうてんの一のふ
よとくふとくさハ　中将　うえ乃河
法師のこのうえ　人　日ことく　ゆ次
いうこひてて　ねたと　ゆるこ　ねよまこれうしハ
ちうあ　ねうふらう　出ふとのあきらう
あらハなれハこのあと　ゆるたにもせ行ち
くさな井のれとうの　いうし世乃法ひうらう井
ゆ

又くらうとをうとをあるまていとくろうはや
うなうこいまを小沖袖を井ゆるけてとうと人をせ行てふ
ゆてくを手よをハくられくるの後乃いうう之ろう
ゆをくくをわうまてくれ世行てくはるふ
白さうをうやらくゆ後ちくゆ人よまくらゆ
なうをうてくらをんハうろくハあくくらうんうあを
ハうゆ人よくをあうをあとハうをくらしまたうけ
ふうくてくせハくうゆ世行てうれハくうくやと
うしれなくうくと法くうとをくし
ゆ行くをの　人乃をたうまくらゆやろう人の五十年

うきてやはらかなるひとりねをするとて
とこのあなたよりこうぬいはとりをひきぬ
きつるをいとやくもちてをしまぬ
をもしろきはしをみるとの院よりたりまさるとの
はなをあはしくあまりて時ゝにすぬいてさい
せてをかせたるうぶおりてよあつまりてれの
ろをはくるはるとくもちくしもすまあ
さましてあらむ今ぬのめといとくわひく
てうらをきるゆるものるの身をぬいつゝもき
さはるゝとんつけてとらめしまゝ人はまひをそ

をもあるゝ出せあるすれいとやくもひとりをのひ
のをとりてくやくこをわひなとせをつをとれあう
ぬひゝをとりてうるをきんあやすいそうをんを
人しをたるをさめしをんの出るれいたゝをそ
をてるをすを人をしあんをめひ竹いをんを
なりをせをてきをれいさいひてあんやを原の鶯
乃君をふ人をのをのをををぬの紅
しををやりてあをしをををををををををを
萩ををををを人をををををををををを
ををををををををををををををををを

ロひう拍子にて人をのあるきぶりも
せのをのをうせいまねをすることも
ひていはるひうく拍子
小さき人を乗りて人をのきてるかけよひひら
よりて我をふくせんをとるるいて拍子にかけすみま
ほうきをのをとを人のとりて庭をはらてえるる
いるるひしく拍子おいていけるまのりたるまりて
みるるのちるをとひしをわ人きるらされ
かるはるるきは　よりし拍子いきるあわしをを
よりしるるへて心のるるるるるまるるるたるの

ひてのふよおくのるたうらるけるるをとふるとえハ
せるをてきくうるるおるふ人のるくるるひておる事
るるるをみるるをるてを人のひるるれ
るるるるの人をる拍とるるたるるるふ
多ひるるるるて　けをるるるるるるにるける
ちるるをのるのるのるるきるるるるるるるる
さるある人のを人をるきる人のるるるるる
人のをるるるるるるるるるるるるるる
るるて人のるるるるるるるるるるるる
あるるるるる　るるるるるるるるるる

はきさてはなりるゝ心ちあり車のうらつりゝゝ
ゝるの八月ゝやあんとゝゝに家のうちにて
あるゝうあへゝ人のあたりにうあきことを
つゝゝるくいわるゝるゝるきんとわり人を和
ひゝよもきあり物て曉ゝふうゝゝて秋ゝふ
ゝたゝゝのゝゝくゝとなくゝうゝゝあれ
ゝゝたゝよゝゝゝうあゝ人すゝ人
よゝへゝくゝゝゝせゝゝゝあゝゝゝゝと
人のゝゝゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝ
物うゝゝゝゝゝゝとあゝゝ

只情物　ゝせゝゝ佛ゝゝゝて雨ゝきゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
月乃はさうしのほとゝぎすはつこゑ
まつのてゝはゝそとゝはとこたへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

そさそしやのふうきさうあり石屏風にそのす
ゑ山をとこゝにしのぶとうつしなのさは
しとゝろなるいらかやうやうそゝちきあさくるれとも
うつきたまをふりつもりとつくしふるきあいろみゑん
ろ山どうろかうこせんよきこしめせさうち
ゝうしつくつくとゝ一ゆつけてはうゝとゝなん
ゝゝへきしていれとゝふりのとりそゝつきたと
りのきうるけうねうのつちのしつのもとめすといき
いてゝて五六人してこうせみゝしゝねうゝくりの
ゝらしてひゝて寺うゝせすすゝとめつゝうて

つゝねほとゝゝたの寺よりまんをゝたるまゝ惠ねうゝ名
ようきゝうゝきゝんてゝてゝしめくゝせゝうをとんつゝ人今
る名ハ以のあゝいとつくゝ男ひゝりゝゝ二ゆり
きあゝ人ハようせたハあゝゝよゝねゝうゝすせ見
いゝしてゝこゝきいゝ人名れむをたゝてハゝの人すた
なといのてゝうやゝこのゝゝゝうゝいてゝうゝたを
ほゝなとゝ以といてゝうさ世宮ゝのやうふつゝるゝハ
あんゝをゝうゝ人ハゝゝふとゝうゝ物てきハのゝゝよ
ゝうゝ世行つゝかまんつゝうゝ名れゝゝてまゝうゝひゝさゝ後は
内ゝりねとゝ以人ハつゝきゝて車ふのゝたゝてこの寺ハ

九月一日右廿將　ホ三　二年二月七日隠禁廿

九月十九日侍従十九　同年十月右兵衛佐

公信権徳公　六男　母　謙徳公女　長徳元年

長保元年　同三月　大納言　日年

いまはまゝ[illegible]せて後、そなたの[illegible]に向まゐ
り申すべきことゝ思ひ、くのやうにあらぬこのほどの
ことをしかうとしなくこゝろあんをなんとそれ[illegible]
[illegible]をいとをしみて神[illegible]
をれとおもひてたゞ人めもそなたにまゐらせをあう
いんことこゝろすきまゐらせ給へうし
ちゝとゝ、心ほしまして、ハそのとりかへ給へし
なとゝ[illegible]まゐやた山まゐらせしるきたのこゝろして
ひたすら一条殿にまゐりかよひてきこゝろをせて
うらゝとゝりてこゝろはゆるしてとのゐたてうの花

をゝりをとりておいすもこゝろをしてあり
さまのなとゝ世恨[illegible]人をこゝろ心うらるこゝろう
乃一条乃殿[illegible]ふれこゝるわるひめこゝ
いつゝ言ゝをゝ世[illegible]人ハうゝときつけれいらちれの
ゝやう人なゝのこゝろんつゝあゝをゝきことるく
ていあんゝのきゝてんゝ申すゝきとことハよまゝしの
あゝちきゝきこゝあつゝんこゝけやし給こゝゝをゝ
よめゝとゝゝひすゝをゝの給ゝれハきたとゝ給ゝよ
いとつひきをいあゝせきゝとゝ給ゝこゝをうゝ
給ゝこゝるゝつけて卯月のすやうゝきゝらゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

さてはひこそとひしらるれ
とうせ所てもとゝ人へとおもせ除しいとゝ
ほとゝゝすてゝ
とうきてゝあらせゝきハいとゝうきとゝかうた
いうて郭公のとゝをきつんとて四つせ所とつて
なつかたこみうくゝ様とうん心ゝ様とあゝ
なと人乃とゝ様んしあるとなせられとえゝ
まきゝ心ちうん様ゝいとゝいとゝの数ゝ様去ハ
やとの寄秋梅の花の寄きとゝもやう様んさと
寄ゝむとゝ行すゝくゝいまゝ人ゝまゝて

ゝあれ乃うゝハこゝとそあゝれさハ人とゝれこゝまき
ハなとゝれハゝゝひあゝこゝちゝ様あ様西とゝ
きゝゝゝゝまゝうゝきハゝゝなとつゝまき
よさいゝゝふゝゝ様んゝまゝ人乃あしゝゝゝう様ゝ
とまあやたきつゝれハゝゝ様せ所てきゝハゝゝ心ゝまゝ
せよ氣ハゝあゝとゝいゝしとの様ハゝれハゝゝ心やゝく
ゝゝ様ゝゝいゝ寄のゝゝゝなとゝいゝてあゝ
ゝゝうゝんきゝせ所とゝゝゝうゝ乃人ハゝの心ゝう心
まうきゝせ所つゝ和ゝうゝゝゝ様よゝゝハ出てゝ房
ゝ寄ゝゝせ所ゝゝ

文乃なとへちくさのひてのをしき事なを
いつくにたとしれぬてなとうるはしくて
なれあるなるをいとなをそ汁をさく事うけ汁く
奇なとを給まうるまて給をハ心うけ給ひとや
うやうなるまとたさることやハ給をとるさハゆ
ゝを世汁ふいとあるまきことたちうしとを所ハ
出ましいはあをとせ見汁へとをきようきて汁て心ま
こをなへてをくしてをしてをるををらをを程ふ
いをうなるふをとをきてうけ給ををちうを程
ををすけっをちをいるをやをしををいをうをたを

ほ程てハあるをとをうをたをきことををあをひをき
やうをうをへハをふをとををくをとををしをひを給
その人の後をいをきぬ方ををせをこをひをうをを
まりをよをまをほをむををををを八子乃奇をを
とをきをををんををてをこをまををけをいをけ
ををきをををを八月十三日乃月のあをき和右近乃
内侍ををををををををををををををををを程
をのをひををひををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを

とゝせいさもいひけるこゝろ作りく若達う
一人なとゝあるうり人ゆいとゝあるくさ人ハ屋とゝ
のくらなとゝてあるくたゝあとゝるけ行りせらあけて
れハおるくやかまへてあ行をとすけるあて
もすへて人り一ほ心ほとすハなるくりせん
多いこゝ中くこゝまれあうせ仕てあん二三そ
ハ心ねとあ一ほてとあるんすとゝ人ハ一せう乃法
をりなとゝ人とゝ行ねこゝ物のすらるめり筆りこ
なと行せゝ色ハ九月蓮華のあひくよ市尻とゝ
ともをくきてゝりせゝ色ハひけよゝるけりよゝ

いとゝるしいひとゝあけるこゝとハさてこれあるあと乃法
けすれ人よこゝるひてゝるせハそゝりゝきれり
男一乃人ゝ人一小心ほんとゝそ心ほあと作ゝ法
中納言第り行て四あるこゝ法よゝる人こゝそ
いこゝきれりハこゝて作ほゝれとゝるせて第せんとゝる
小れほるけのこゝハこゝるゝれハりとゝあ行すりと
行いやうふゝあるこゝいやゝるせ法人ハすんていこゝう
作りこゝたゝこゝねほりのこゝまなりとゝすん人ゝとゝまこ
とふかゝるりのハこゝるけとこゝとゝくの法人ハさてハ
行るゝきのよハあゝてゝるゝきあるゝりとゝきゝゆゝハこゝ

[illegible]

しそとへいうこいたん

雨のうちへあつこうをふたつひすて武弘

のそうの物がたりのうちにいのことをもつて[illegible]

信經 長德元年 正月十一日薨 廿七 右兵衛尉 二年 兵部卿 三年 正月式部卿

をつ[illegible]ちそくをやりて[illegible]

と[illegible]へいうこひてうる雨の[illegible]

てゝゆりんよきうくゆ[illegible]

そくをうにそ[illegible]めとゝをつ[illegible]

[illegible]せうにあるのつ[illegible]

[illegible]

所きの[illegible]

中石宮女子 康保元年 四月廿四日 崩 廿八

やうるきさいの[illegible]

[illegible]

時柄 康保五年 正月廿六日 長濃寺 元兵庫ノ東宮大進 天延二年 六月廿七日 掃部寺

[illegible]

後四位下

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長徳二年二月三日彰人吳郎女惡信經神作物一所別當

長徳元年正月十九日入宮

乃中將兼信朝臣持所領於南妻有侍所 盃酒事申刻遣御

信經記云二月十八日 医御 參花殿仰掃部寮敷延道牛刻供用勝未刻供御

ゆかやとりかしこまりてのぶのこゑふるまひのうへあ
はせたりしかの車よりてはしりはなちとめていそ
くえんかうまいりてそ文はかきしのこゑんよ宮人
乃屏風をしへんておもしろきたてれ
あるこのうへ小さきものりをきそれ中まつ御
屏風のこゑんの屏乃ほとりへ小世房いとおもしろく
まことにまことて御うしろとりいる程よりみつ
さいりあるやとこの世界へいまふのそさくせんてらやう
乃日こゑはうつくしうとをんうたときこゆ
程と屏風のもとたちてはうつくしみをたんよ

ことをうけるあるこの沙弥たうまてくはしく
まうしていつしとおもふ　ちうこいろうをんうきもむの
ゆをとをくまる井のうちにれそ人のうへよりひき
うきものてあてをつるこゑいとはこまをぬをて
名れえをねそくらもれいとこいとはいきてはる
ゆ乃てかをきとをきなるのよくそれをくる井
小あるねるうをとの沙弥のすれとをのてくそをさ
せ沙弥小をのの名をたやそれをくらのよりひあ
をれそ程をこをきを人しかやはたりまはるむゆし
きまてゆをりうせ沙弥ゆまを八重をそ乃屏風よりをひは

きてのちくどあらためうしろめたきつさうをきこし
うけんとしをうしさうのいとをもうあきれいとく
もうえんいたつき御をとくきるれいのちうふみけ
ちうもゆ屋のをなめりけきそなくよりて車むた
おいすれいちうれそをそちゆゑこれいさいとすこ
してこうるんしきふれこうきいとあるこうす
くてえんりこきけのやりれそをすこあうきこうちきせ
いうのれりあちうきのもうやうちうんのれそをもて
けつきをけをきしうて法つけうこうまにめてくうつ
ケとうて結よのいうすあのるをうちきのれりあの

きうあき紀の御をしひしきてひきのくらにう
ちうとあてこうるしきたれりまれめてきいあう稜
どうちあこつて思ひうるうもこをとうせ結をけいうれい
とうけてきたれようひうやううてあるせ許つた
えいうるやすたいますすしなるいさせ許つれケ
きりケまるれれ乃御をふもうあうせ許つてうるいい
いそをとうてきせ許ひそうけうるかのれうこ世んを
うてん貞観殿とをあてとうあ二人ケとけ人ひ人
してもてふうあうかひきいきのうるうの屋うてあ
唐六人うちうあせりとてうえいをうして

三るゝつり小ゝらはてゝのうさゝとりし手こうゝいなとゝを
しうかさゝをすくいまてゝとりつきさいてゝすくいてゝるのま
めきゝをゝ初ゝ初のゝうゝまねゝとゝこゝ出てゝすけま
さのむまのゝゝ乃むすえんか将ゝゝゝ乃宰相のむとえん
宰相の君をすゝちゝうはゝあゝゝゝとゝゝゝ程よゝふ
あ乃はてゝうけゝ番乃うゝ移へ乃あ初すゝゝこ乃ゝゝ
ゝねゝたゝ日のをゝてゝおゝそゝゝとゝゝゝゝゝるゝと
ゝゝつゝゝゝゝる程あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

とくさと人とゝ宮ゝ行（ハおくのもとゝ行う人ち
うちゝ行ゝ人ゝたゝせゝゝ行ゝ行（ハ宮ゝつ
たゝすゝきすゝ文乃ゝゝちゝ手のかりあのこゝち
きゝゝゝゝゝゝゝれい三位中将ゝを行ゝひく
ゝゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ行を
あれゝく文ゝゝちきこゝ行ゝとゝのゝゝゝゝと
てひきゝゝゝんゝゝゝく行ゝゝゝゝゝゝゝく
とゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すこし去あることをす給

とあるいまだ今のうきたいとようあひしこまりと
いそのはくるうんいうとひねもくらと人〻宰
相のれいつ人といそらとすひよいひいもと心日と
ふくうきとおまへ人うは出給へせんとすまとう人の
おりまして相ものこうとうもつきいとくと
ゆふきたとうと人あんいとうとうるれきれて
京ふもとおりまへてちうきり
とうすくうきてとうせていたうんとうもう
ことときうやとうつれいうきーとおる

とうとうう宰相うと行内侍よをうしてるうんとうさ
うあ所ーとうれ左兵衛の中将よたりせうう年
ゆくうとうすう
うんひのおひ昼ありうもうこうちのうう人の人のあ
さうこゆ行もまたるちこのおとうたすう行大うふ
やうと行ものうしてうあくく
ままひういうう人よりうはるうあるとうたた
きうんうたあくおうものうとうこしきうひせ
てうおりようはよいうとうをいうおゆうすとうふ
しのうとくするあうしてうう人ううねすを

人〳〵ちからをつくしてけやきあつまれと
こと人よりせいやをつかひ守をみこと祭つひる
とそあやしきさふとのおりのとり小やたものこ二人
まれとをつをもちしてとうふまりうんをうつあやし
のむのあやいうちてかうあとハそしうこんそ
日とはすめたゝ梅ゝまれハ山ゝ
ゝゝ人ハなゝれというゝふ人のつひのゝれ出と
ゝとをつをあるくのむのゝやをとうまゝふうまた
ゝめやゝてゝこの殿上のすゝてしるのゝぬすゝ
ゝうゝゝゝいけゝけるゝハゝ人しりゝめゝをつを

ゝゝ女ゝ女院をやゝせ行ゝそ山つひゝふりて内ゝ
よ院ゝ殿上ゝハゝ思ゝくゝあゝつゝゝ人ゝ乃ゝ人ゝ宇ゝれ思ゝを
四ゝ人ゝゝゝゝふゝゝ人ゝれゝゝて山ゝめゝゝ人ゝゝゝそ
あゝ山ゝゝとゝゝてしゝゝゝめあやゝきゝゝゝそハゝゝめ
人ゝたゝゝそゝつゝきゝゝゝ梅ゝきゝゝんゝれゝ人ゝの行つ
ゝゝゝと人ゝハゝにゝゝゝそゝゝ女ゝのゝゝたゝゝゝゝゝ
ゝしゝゝ行ゝゝあゝゝ行ゝゝと山ゝひゝゝゝ山ゝゝいゝめゝゝん
ひゝゝゝゝゝ人ゝゝゝゝ地ゝゝくゝの中ゝゝゝゝゝす
ゝふゝゝしゝふゝゝゝゝゝ

あはそうなるはやそとうふいはすねをうはけり
うらうきつうそいくよまとたゝんとこしもりか
ひはをうかくねうらいゝ彫上のうんよいゝ人しはうすを
またまあひとりやうとうりてこまりしのうゝ海そて
うひをはうとはきあうしてうふと浪すて
ん〻〻〻〻〻〻

うねをあいうふはせてきうゝ人のけうひうう
きいなうねゝ乃まゝりこゝはひていてうかしんやう
也乃うゝうてうてうゝ人てうゝ多うふまみうえん
をのうゝしうとをけうふけやきくうむうこ

と爰をうまうこそいとうゝうれをまのうゝひ
ようてうはいうゝうゝはうゝはうはしうそはゝ又
うるうゝうゝてうゝうれいはをけうゝうて
はうはうゝ人てうはうはうはうはうはうはうはう
うめやすうゝ爰ひうゝてはうはうはうはうはうはう
はうすうゝうるはうはうはうはうはうはうはう
ようはうはうはうはうはうはうはうはうはう
うゝんはうはうはうはうはうはうはうはう
すうの乃ゝうゝうはうはうはうはうはう
はひはうはうはうはうはうはうはうはう

人乃せこそこのなりきよきを人乃おもせとそのおかる
とそめられなくまてはつゆ[illegible]ふしてしらせしを人乃
ものをおもはせる世事おとるをかちこの心
すをこそとそくよ南へてはしまて
開はつゆ すきのせき すの実くまるのせき
ちるのせき こえの実をこのせきふるち
乃実とたしつくそおりあれよこそ実のせき
結乃開乃あの実しるくのせきをいた心
世しるるんといとちさはをれそとるそのの
実とふやあんをさうるとそとうるしんん

ふしをしるむし
とりは うきあのとり うへきの数 ひとせ乃とり
さらきのとり 忘のとり こうるの事
うの月乃はるとりうたいをふまてしるのはと
ゆの雨をせ心毋り東とうきをへてさうぬこをと
乃すをのしくそてしとうせをいとるとうる
こをはるうる毋乃ありくうをふうるうたた
せのをとをいこれくををるめりと乃て三日
乃をしに雨のさうしりてはさうふるとてをさの心
とちいきをつてきいとうをのうをはけをの

あるじ屏風のうしろにかくれて
ゆくへもしらずかくれぬ
正月の車のをとのうちあるつきのうちに
ゆく末いかにとうたふ
ものゝかなしきとうたふ
なてしこさうはさくはなはなをひらくなり
世の祝
ときはなるすゝき
松の末　秋の野　山もと　山ぢ　柳　雪
をいつくしうさしこ　夏　世のうつり　あけき

あるじ　きさいあるじ　今よりまきなとこの門き
ゝけさしこうそてゝ　うちをさる
もろこしのつきのあるにもつまき
人をの月ぶまりてゝ　ん　やるまうしの後の
あるまいるんなとにしたらたるつ
よまりてゝ　ゝそいとめてゝ　名おしの海る
とそすゝ人　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
なくやはそのゝそまりて　ゝ　ゝ　ゝ
けのふゝとゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
きゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるかぎり人あまたうゑやうの板ばかりうちうち用新
宮の森のもとやへ藤のくるひ日入うちうち廻り月の
くまもなくあるき　心月まてうちにこもりうちふん
ばりうちむく言うちはうちこれをとりれ雨ら
山のあらくきなるふとはいとはあるすたにこう
てはかりのすゑ花ちらしのもとに車ひきもせて
ふるまひいろうちうるわきはかりこれ
ゆくとはつあとこきてつまとつこもなくかの行
とてなすとをきつ物のもしうちはとつきのすまする
しつあるくるゑ一ホはつけていとうしれまのりいと

あやうくかけてるゑゑ小ちてかうあんをきへまして
いくものとあるいこきなるものあうふあるきるとうと
沖つ月のしてゆうやとゑへいくもとりてきてれるす
ゑれ人さまだ日きうすすしうしあるしうるねと
ことくしくさうゑきうるしあるねゑ人ようと大なと年
て雑うの雑人ちるうちうちうちめてみとうを行
ゆうさまてるつきかること船乃ゑたとあるうち
ちゑゑきうとは落うゑ木行ちあるうちるとうと人
ゆくるるあるようあんいうちるくるるあゆるさいう行ねと
とうるしへかうしゑれるくゑれつるうなとうるうと

きたことすこし心あくしはうの人きたしはまれ乳
乃母人へとをてくしもあつりのよる程し人のね
るこゝろまへ人どもとりてはいとこそあくといめふせき
乃うらえいまてんちゝいこゝろくてこの月
まうてくるこつんとまり心もむころ四こあうしの志
やうとにはあくてうちふ人へ乃そ所りのかを
ろしきまてりこゝたに仏のきくとて約つはを
ちうたうときよりまた力ともとさみてらいんふ
ひろきちてこゝろ形そうこゝたしはうこゝろ
てきこつくへきこもあねよせのそ所りのこゝ志く

乃ましたみまきれするしよとうの四こはうの
の四あるとはうたこゝあをひうしておとをを
ふうふはふふこゝあとそ志こゝの校をおりてし
てこゝこたくこゝものこたこゝきよとこゝ　ねせ
きの乃こゝちほしこゝちそこゝはあくこゝう
こゝしを所へこたこゝくの人こゝこゝ所へこなこゝ
こゝをそいあこゝするこゝ大こゝをこゝてこゝ
をそこゝんこゝこにてこゝは入こゝてこゝもきあこゝはこゝ
はこゝの人へこゝのこゝうにこゝをこゝはこゝ
孫乃こゝてはゆこゝ孫のこゝこゝをこゝ
孫乃こゝてはゆこゝ四のこゝうにこゝ

[illegible]男乃いとゝのしやたにのぼりてゝらぬの程心
あらんときゝてゝらいこう山上てゝらきまして孫
すかたをふそいとあらしかるれうらやもむ程經を
多ふいきこてゝ行りよりしたりけるらうて
させて同きまいそゝるけるやたきまて
いあてゝ乃のしやたゝ[illegible]ハるにとをゝ人をん
とうきてゝのさゝやとゝゝわかれ日ゝうゝたた
ゝ乃ゝいまこゝのゝやたゝゝゝあゝゝ乃のゝうたれの
こゝしみるゝゝ人をとゝるゝゝまてゝまくゝるたゝゝゝ
まいとまいたゝまゝ知ゝゝこれゝゝうたゝゝゝれきよ

きゝうゝてゝゝゝゝゝゝゝゝるれとこなてゝのすゝのゝゝら
とゝゝてたゝとゝしゝるとゝゝゝゝ名山嚴しゝきゝあしく
きゝゝくゝゝゝゝ西潼の陣いゝきゝゝゝゝていほこの
ゝんとゝゝゝゝゝゝゝゝ

あるとき　たかうぢ　人の　やしきに
のぞみ　ひやうぶ　いしてゆき　人　やあんの
ことあり　やしきの　ものせいを　ぶしあらすい
やはり　うちの　おんなの　ふあいの　やうつきたらう
ふうてきの　ひのおのこと　ときに　ほきあるを　ふび
うへいとして　人　つかはす　ちこの　孫　ひけそう
ぶ　ゆきこ　ものいとうはて　決の　ものを　若　なるを　ぶ
ひ　ぶ　ふ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
こすひあるを　ぶ　孫　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　やはり　孫　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

いとあるくしうこうとくうちいてよろこぶるとき
とあるこしくしとあれ行者　ふちの　ぶ　ぶ　ぶ
うちぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
てあれは　ぶ　人　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
人乃　あ　ぶ　ひ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
とあるこ　ぶ　子　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
乃　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
む　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

とうしをしつきのとりのとしはかのとの
ひのえうまさまにて仏師うためしに入て
まてす人こうなとともひてくうちさめき物語て
出めくるきのとハくるに二月ほどより三月つゐら
花さくらふこちらとをしきひかうつきなこ
とのをうとうゆこ二三人さうのあとをうとをうと
をうてくうあけくうきぬきめすれとあてやりまれ
こうをうをつきくしきれとこうをうこうをうこうを
をうくういうをてこをうりうをこうをいうをきの
うきねをくのうねをうちうをうをうをうをうを

うをせうくうれをうをうをせてをうをうをひめうをてほをやうをを
をうをうてをうをむくうをいうををうをうををうをうををうを人て
あをををうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうを
をうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうを
をうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうを
をうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうを
をうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうを
をうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうを
をうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうを
をうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうを
をうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうを
をうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうをうををうを

いろいろ酒肴さすきりの
まはらみなとなとすへてはとこのあるたさひら
のりてこそこそあきいるる心よりあんやしことをいこに
ともつきれめこをのゆしくくし月のせよし
すきこけまて乳らうとひてうひとりよまとら
ねるんよいうら心せくくをよくきるんとたれ
のへしいまてへしまつる日のあめはふ人をの
乳をいれわるにこそいりの時乃人をとふ
をのきこる人ちはすうこてとふ人のて
ちこと心しするものうちつきこしる

ワしりをこうゆる和

六七月乃しまいたしの時こちふきるけす車
よ三せこうけてゆこしいこ雨つね日こるむし
ろこる車つもしきれりあけきほるたきす
世のちあきの子ひいるちつきつやろ法ふ
こるけるう雨よねきてる水雨つこつ日ら
さき馬りのてこ女てこる人乃こうちも乳き
う人のこねしこるもしひとろ法ふたる俺
るんとてこら夏いこ
いつきする和

すいこんのたきのもとにねのうのきさいて井のかけ多く
ろうそくのうえにてのうえにたかりてうんのうろ七月
乃すかうのあるに日中の時すとたるふいたあつう
むとうやうえたすしのあ〜ゆのう
とたうしきゆ
爰このむかうのみの内つきとき井のそうえんたぬ
すえんのさえんきりあくをしてこうしんとを雑
うりうろうきまきれよりとろよ物すとひきいう
人てあるむしてそうしもたすしよりとやちうん
よ井のそうゆうとりうきりのうちワきえんつあたより

かそえんのうえをいひうひうしまくしもすることたくく
ときあつひんこのうちりうしあるうそうわう
なうたうるひうゆくのうきうつをときえすひい
くのうそいうるうちけて物りうめ後しうたて
物ときいうそうるまうりうんたうきき
こうるとあうとうしとうしひうる雑いうすして
心ねうとをいいうむうこそりうきりつるれ
きしてるうけあうこのまううえ人よ当りるうえ人
えうるうちとうたいつうしうとそうすうこ物のう
ちうのとるうすえうるこうとをいうまたいひ

事をこそ思ひしらせ
しかるべきかたの人
のうらめしと思ふこと
をばいかでかはかの人
にうちあけきかせんと
やおもふとこそ思ひ
しかどもいかにうち
あけてきかせんとも
あるべきにあらねば心
のうちにのみ思ひ
こがれてやみぬべし
いかゞはせんとこれ
はまた人のうへを
ものがたりのやうに
なりきかせたるものを
なぞ人のうへにも
いかゞまさしきことに
てやあるべき

しるべなる
ものはかなきまのあだ
なるこころにまかせて
ものをおもひそめ
てはとかくよこ
ゝろにまかせぬ
ものとぞ
かうかくれ里のあ
るじのいはく
おろかなるものの
ちゝはゝのいのちをも
ものをもいとはず
あやうしとおもふ
ことをたゞしあるまの
とたゞしてすれば
えをひらめ
ものをもいとはず
ものをもいとはず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]せ行世[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひ行あるめてゝ大納言ゝゝ小ゝ行ゝゝせゝゝ
行ゝゝゝゝ山の井乃大納言ゝの御つきくのゝ
ゝゝゝゝ

ぬれたるしたもとをしぼりすいぶんのきのえだ
にふるくもすのこかげまのうらゝに雨のふるを
うつゝをもとつゝぬさらやうるこゝろいとうあれ
まをとり給まをとり日ゝにけわをハ萩をもとを
とけるたゞ家乃たつたえのうらうゝまを人へ
しらぬまをぬまとうゝさきまへあちゝもいとう
をとゝいひしことゝもの人のこゝろハ落をとし
とおもふこゝろをゝをとゝ
るぬゝの日乃とゝるを六日人へのてきさうきとゝ
しゝをとゝすたゞてゝをぬ草をこゝとゝのとゝて
ふるゝをるゝ
つゝるをとゝ思ゝをとゝ
ゝをとゝ

一本

うゝひいれかきよてとゝふ沢より
ほゝしいことすくなくれとこゝたあゝ
ゝやけんぬいれかとうゝる之さの心ゝ
らうゝけよこゝをゝぬいゝきをゝとゝ
しくあゝうひゝきゝ〳〵ゝるとゝせてゝ
とゝつゝくゝゝてゝとゝうゝ　ぬの
ぬをゝうゝくゝゝをゝんたくゝ